



CONTENTS

「次の5年をどうするのか」～エイズ予防指針見直しの議論から～	01
新人ボランティア合同研修会 開催	02
第10回アジア太平洋地域エイズ国際会議 (10th ICAAP) @釜山	03
ネスト・プログラムより	05
部門報告 (2011年7～9月)	08
ぶれいす東京のTwitterアカウント開設	12

「次の5年をどうするのか」～エイズ予防指針見直しの議論から～

宮田 一雄

わが国のエイズ政策の基本となるエイズ予防指針の見直し作業が今年1月から厚生科学審議会のエイズ予防指針作業班で進められ、改正の考え方などを説明する報告書が9月にまとまった。早ければ年内に厚生労働大臣による改正指針の大臣告示が行われる見通しだという。感染症法に基づくエイズ予防指針はほぼ5年ごとに見直しが行われており、今回はわが国を代表するエイズ研究者やHIV陽性者団体、エイズ分野のNPO関係者らで構成する作業班が計9回の会合を開いてきた。会合を傍聴した感想も含め、予防指針について報告しよう。

今回の作業班の班長である木村哲・東京通信病院長は、5年前の見直しの際の検討会でも座長を務め、最後にこう述べている。

「5年後の見直しのときに感染が広がっているようなことがあると、座長、何をやっていただかないかということで、困るなあと心配もありますけれども、大変よいご議論をいただいたので、きっとこの予防指針が効を奏することと期待しております。」

残念ながら、その後も新規HIV感染者・エイズ患者報告の増加傾向は続いている。その反省も踏まえ、作業班の議論を外野席から集約してみた。

- (1)必要と考えられる対策について網羅的に目配りした指針ではあるが、誰が対策を担うのかが曖昧である。「絵に描いた餅」にならないよう「行政とNGO等の連携」を本気で具体化させる姿勢が、行政側にも「NGO等」の側にも求められる。
- (2)医療の提供に関してはエイズ拠点病院体制を充実させる方針が維持されたが、治療の進歩に伴い、HIV陽性者がHIV関連以外の治療で医療機関を訪れる機会も増えている。拠点病院だけでは対応できない医療ニーズの多様化も課題として指摘された。
- (3)予防と支援は切り離すことができないエイズ対策の両輪であり、有効な対策を実現する観点からも人権に配慮した施策の遂行が重要である。

新たな改正指針案は、これまでの8章に「検査・相談体制の充実」を加えた9章で構成されている。

改訂予防指針	
第1 原因の究明	第6 研究開発の推進
第2 発生の予防及びまん延の防止	第7 国際的な連携
第3 普及啓発及び教育	第8 人権の尊重
第4 検査・相談体制の充実	第9 施策の評価及び関係機関との連携
第5 医療の提供	

最近のエイズ動向委員会報告で注目すべきは、新規HIV感染報告が横ばいから微減なのに対し、エイズ患者報告は増加が続いていることだろう。エイズを発症するまでHIV感染に気付かない人が国内に少なからずいると認識しておく必要がある。感染報告の減少は、感染の可能性がある人が早期に検査を受け自らの感染を確認する機会が減っていることの反映であり、見かけの減少は、流行の縮小ではなく、むしろ拡大傾向を示していると考えなければならない。

感染が早期に確認できれば、HIVの増殖を抑える抗レトロウイルス療法(ART)を適切な時期に開始することができる。その結果、HIV陽性者が長い期間、健康な状態で社会生活を続けることが可能になるが、逆に感染の把握が遅れ、発症まで治療が開始できなければ、その後の治療効果も思わしくなく、病状の進行や死を防ぐことも困難になる。

一方で早期の治療開始でHIVに感染した人のウイルス量が低く抑えられれば、感染した人の健康上の利益だけでなく、他への感染のリスクを下げるという予防対策上の効果も期待できる。こうした考え方は国際的にも指摘されているが、極端な応用がかえって予防の努力を阻害する恐れもある。「予防のための治療」の性急な強調に対しては、作業班の複数の臨床系委員から「治療はあくまで治療を受ける人の利益のためになされるべきである」との指摘がなされ、おおむねその考え方が共有されるかたちになった。

全体として改正指針案は現行指針を大きく変えるものではなく、見直しは実行性の確保に力点が置かれている印象が強い。HIV陽性者団体やエイズ分野のNPO関係者らの意見も少なからず反映されており、5年後に「何をやっていただかないか」ということにならないようにする責務は、班長だけでなく、エイズ対策の現場が等しく担っていると考えられるべきだろう。

新人ボランティア合同研修会 開催

2011年度の新人ボランティアの合同研修が、9月10日（土）のオリエンテーションに引き続き、9月19日（月/祝）、23日（金/祝）、25日（日）の3日間の日程で開催されました。研修の報告と参加者の感想文をお届けします。

毎年9月の恒例となった、各部門合同での新人ボランティア研修会を行いました。最初は2002年で、それから数えて、気がつけば今年で10回目を迎えました。なんだか早いものです。

今年は、9月10日（土）にオリエンテーションを行い、9月19日（月/祝）、23日（金/祝）、25日（日）と、秋の連休のなかでの研修となりました。例年と違った点は、震災の影響とクジ運のなさで、いつも使用している会場（豊島区生活産業プラザ）の日程の確保が難しく、3日目だけ初めて豊島区立勤労福祉会館を使用したことでしょうか。

オリエンテーションに32名の参加希望者があり、研修には25名の参加がありました。参加者の年齢層、セクシュアリティ、社会的な背景は様々でしたが、みなさんワークショップ等を通じて積極的に意見の交換や交流をされており、楽しんでいただけたのではないかと思います。みなさま、研修お疲れさまでした。

さて、研修後はそれぞれ各部門での活動となりますが、各部門の希望者は、電話相談9名、バディ12名、オトナPEP5名、Gフレ1名、事務総務1名、等となりました。（重複選択あり）新人のみなさん、これからそれぞれの部門で、楽しみながら、細く長く、ふれいすの活動を支援いただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

（報告：牧原）

参加者感想文

「新人ボランティア合同研修を終えて」

横川 峰子

この三日間の合同研修会が開かれている間、私はいつたいいくつもの一人反省会を開いたのだろうか？前職場のボスに「乙女座はその日あった出来事を自分に照らし合わせ振り返り一人で反省会を開くのが好きだ」と言われた事がありました。そしてこの研修中、私が乙女座だった事を何度となく思い知りました。

研修第一日目の最初のプログラムは参加者全員でのグラドルールの確認。初めて目にしたこのルールを読みながら、参加者全員の人権を尊重する事がこの研修に限らず今後のボランティア活動にいかにか重要か改めて気付かされ研修が幕を開けました。始まってみると講師の方々からの話に目から鱗の連続でした。知識面に限らず、自分の視野の狭さや無知さに何度も胸をえぐられる思いをしました。外性器のみで男女を判断し出生証明書を書く事に疑問も思わない私。すべての問題を解決しようと躍起になる私。目の前にいる人でなくその影にいる人に

	9月19日(月/祝)	9月23日(金/祝)	9月25日(日)
	グラドルール	グラドルール	グラドルール
午前	社会的な背景 池上	医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識 福原	HIV感染後の生活と 社会サービス 牧原
	休憩	休憩	休憩
	医学的基礎知識① HIVの基礎知識と 検査法 福原	セクシュアリティの 多様性について 池上	ピア・サポートの 取り組み 矢島
	昼食	昼食	昼食
午後	エゴグラムと 交流分析 野坂	プライバシー について 池上・生島	相手のある保健行動 ～コンドーム使用と 使用依頼～ ロールプレイ
	休憩	休憩	休憩
	手記を読むワーク スタッフ	セイファースックス リスクアセスメント 生島・スタッフ	3日間の振り返り 今後の活動について
	振り返り	振り返り	

思いを馳せての相談。自分がおちいりがちな傾向や視点に気付き見えてくる事がありました。今後の研修にも視野と心を広げて参加したいと思います。

講師の方々、スタッフの皆さん、一緒に参加した皆さんどうもありがとうございました。

「研修を終えて」

新人A

今後のふれいす東京での活動の基本となる、合同研修が終わった。

どのテーマも大変興味深いもので、HIV/AIDSの社会的背景や医学的基礎知識も、図を示して解説して頂くことで分かり易いものとなり、改めて自分の知識の乏しさに愕然とした。

またワークの場面では、他のメンバーのいろいろな価値観や感じ方に接し、自分にない発想に感心することも度々であった。

そして今、以前目にしたことのあるHIV/AIDSに関連した文章を、違う感想をもって読んでいた自分に気付き、意外な気がしている。3日間でそんなに変わるものかと思う反面、その背景を多少でも知ることで、以前よりより深くその内容をとらえることが出来るようになったのだとも思っている。

改めて自分に何が出来るかと考える時、もちろん知識も大切だが、他者と接するということかということかということを、今回の研修で教えてもらったと感じている。相手を理



ロールプレイ「メトロ保健所」の一幕

解することは大切で、とても難しいことであり、頭では分かっているけど、そしてそう努めていても、実際相手にとってそれがどう映っているかは分からない。独りよがりにならないようにという気持ちを忘れず、活動に臨みたいと思う。

「自分の経験から」

こっぺくん

僕がこの研修に参加したのは強烈な自己体験からだ。昨年十一月、大学の仲間と記憶をなくすほど酒を飲んだ後、気がつくと僕は知らない女性と体の関係をもっていた。相手はアジア系の外国人女性だった。もしかしたら HIV に感染したかもしれない。そんな悪夢が頭をよぎった。当時、僕の HIV に対するイメージが「死に直結するもの」だったから、次の日からノイローゼにならざるを得なかった。夜は寝られなくなり、ご飯は喉を通らず、体重も減り、友人たちに嫌な顔をされるほど相談するこ

とになる。終いには電車で倒れて救急車で運ばれ、両親を泣くほど心配させてしまった。

この体験は僕の価値観を変えて、気付きを与えてくれるほどのものだったから、HIV ポジティブの方々や疾病にかかわる社会全体に対し、何かアクションをおこしたい、それが僕の気持ちだった。偶然行き当たったぶれいす東京のページで、毎年九月にボランティアスタッフを募集していることを知って、ずっと機会を伺っていた。

研修はすばらしい講師の方々ばかりで三日という期間を長く感じさせないものだった。研修に集まった人の理由はそれぞれ異なっていたけれど、この病のことを考えて、何かアクションをおこしたいと考えている人がいるという事実に僕はなんだか嬉しい。研修を通じて、細く長くでいいから活動を継続していきたいし、社会全体が何か変わってくれたらと改めて思った。

第10回アジア太平洋地域エイズ国際会議 (10th ICAAP) @釜山

8月26日から30日まで、韓国の釜山にて行われた第10回目のICAAPが行われ、ぶれいす東京や協働プロジェクトからの報告もありました。2名のレポートをお届けします。

「誰もが参加しやすい国際会議とは…？」

大槻 知子

8月26～30日に韓国・釜山で開催されたアジア・太平洋地域エイズ国際会議 (ICAAP) に参加し、ぶれいす東京が関係する3つの演題発表を行い、また現地の NGO 関係者たちと交流したり HIV/AIDS 関連施設を訪問したりしました。

「口頭発表」

「Creating a Better Work Environment for Everyone -An Approach of "We're Already Living Together with HIV/AIDS"」(すべての人にとってより働きやすい環境づくり—「Living Together」の取り組み)

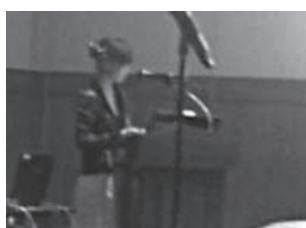
「ポスター発表」

HIV陽性者参加支援スカラシップ委員会によるポスター発表2題

「The Needs of PLHIV and Function of NGO-initiated Scholarship for the National HIV/AIDS Conference in Japan」

「The Effects of Participating in the HIV/AIDS Conference by Scholarship on the QOL and Social Participation of PLHIV」

口頭発表では、ぶれいす東京が HIV陽性者の就労支援の一環として、東京障害者職業センターと協働して行っている企業向け研修事業についてプレゼンテーションを行いました。昨年



口頭発表をする大槻

度に終了した厚生労働科学研究班「地域における HIV陽性者等支援のための研究」(研究代表者:生島嗣)の研究成果と実際に企業で実施した研修の事例から、HIV陽性者とともに働く上で必要とされる配慮事項は決して特別なものではなく、陽性者にとって働きやすい環境を整えることは誰にとっても働きやすい職場環境へとつながる、というアプローチの数々についてまとめたものです。

日本でも東京と他の地域との間で HIV/AIDS をとりまく環境の違いに驚くことがありますが、アジア・太平洋の大きな枠組みでとらえればその度合いは増す一方。同じセッションで行われた他の研究発表はよりベーシックな支援ニーズを必要としている国や地域の状況についてのものばかりで、わたしたちが活動しているフィールドとの前提条件の違いを強く意識することとなりました。

お隣の韓国の状況はというと、日本との共通点も少なくありません。例えば、保健所では無料・匿名で HIV検査が受け



アジア・パシフィック・ヴィレッジの様子



ICAAPのスカラシップ事務所に突撃訪問！
担当者のクワンさん(左)と大槻

られるけれどカウンセリングはほとんど提供されないなどといった、どこかで聞いたことがあるような話も出てきました(詳しくは、ぶれいす東京Webサイト「ぶれいす日記」でのレポートもご覧ください。http://blog.ptokyo.com/)。親しくなった現地のNGO関係者たちとは、今後も連絡をとりあって情報交換を続け、ぶれいす東京の活動に生かしていきたいと思います。

“Diverse Voices, United Action”(多様な声、結束した行動)がテーマに掲げられた今回のICAAPですが、会議2日目に会場でHIV陽性者の治療アクセスを脅かす自由貿易協定



開会式で始まった抗議行動

(FTA)などに抗議するデモに参加していた韓国人活動家が地元警察に拘束される事態が発生し、以後、この件に対する抗議を始めさまざまなプロテストが会期中を通じて続くこととなります。デモ自体は内外の活動家らにより入念に計画されていて、開会前から協力や参加を呼びかける広報が始まっていました。一方で、センセーションを巻き起こすような大きな動きはひっそりと生活を送る韓国の当事者に影響を及ぼし、彼らが支援リソースにアクセスしづらくなってしまうのではないかと、懸念を抱く地元の人たちもいたとのことです。

——とはいえ、以上はハングルがまったくわからないわたしが収集できた情報、英語を話す韓国人があるいはその他の国の人々から英語で得た情報に偏っている、あの場で起こっていたことをどこまで把握できたかはわかりません。デモ活動には参加できないという韓国の当事者の声を「代弁している」という外国の活動家の姿も方々にありました。HIV陽性者、“Key Affected Populations”といわれるとりわけHIVの影響を受けやすい層の人たちなど、それぞれひとくくりにできないくらいその中には多様な声があり、必ずしも結束しきれない行動の数々の奥には、さらに多くの姿を見せられない人たちもいるのでしょう。そんな人たちも自身の方法で、必要だと思う時には姿を見せ声を発することができれば…。高額な参加費用、入国ビザを拒まれた人たち、参加予定者の欠席や一連のプロテストの影響によりキャンセルになった発表の数々——会議場にいらながらも、その会議場にはなかった姿や声に想いを馳せずにはいられない会議参加となりました。

「MSMの研究・対策の視点からみた、今回のICAAP」

名古屋市立大学 研究班研究員 岩橋 恒太

ICAAPに参加するにあたり、私は2つの目的をもっていました。1つは2010年度に終了した「エイズ予防のための戦略研究」の成果紹介を行うこと、もう一つ

は Developed Asia Network という国際ネットワークの構築に関わることです。

エイズ予防のための戦略研究の報告としては、webサイト「HIVマップ」の紹介報告とRDS法を用いた携帯電話アンケート

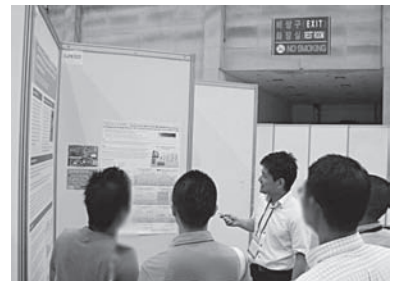


「HIV マップ」のポスター発表をする akta の柴田恵さん

の分析報告の2本のポスター発表が行われました。私は後者の報告を担当しましたが、今回のICAAPが戦略研究の成果を国際学会で発表する最初の機会ということで、非常に緊張しました。

Developed Asia Network は2010年から日本、韓国、香港、台湾、シンガポール5ヶ国のMSM・TGのHIV対策のネットワークとして動き始めたネットワークです。今回の釜山でのミーティングが2回目となり、日本からも5名が参加しました。

MSMのHIV対策において啓発や研究における国際連携が必要なことは、今回のICAAPの各報告で繰り返し出されていたテーマでした。例えばAsia Internet MSM Sex Survey という、アジアの12ヶ



ポスター発表をする岩橋さん

国から約13,000件の回答のあったMSM対象のウェブ調査が行われていたり、METROPOLITAN MENというアジアの複数の国や街を連動した大規模介入が始まるなど、興味深い報告がなされています。また、ICAAPで史上始めてMSMをテーマにしたプレナリーセッションが今回行われたのも印象的でした。

現状では、すでにアジアのMSM同士がウェブを通じた出会いを経験していたり、クラブイベントを通じて各国間で交流が行われているのを、やっと対策や研究が追いつき始めたといったところです。多くのMSMが日本からもアジア諸国を行き来している現実を考えると、改めて、日本でもこうしたネットワーク構築、研究に関わっていくことが必要だと感じました。

※エイズ予防財団の派遣事業(スカラシップ)による参加者の報告書が「API-net」に掲載されています。

<http://api-net.jfap.or.jp/index.html>

※「Greetings from Busan, Part 1~Part 4」(ぶれいす日記: by おーつき8/27~9/2)もご覧ください。

<http://blog.ptokyo.com/>



現地のHIV陽性者団体・支援団体も“Living Together”のキャッチフレーズを!

ネスト・プログラムより

2011年1月より利用方法が登録制となり、開催場所も「ぶれいす東京 多目的室」となり、新しいメニューも加わったネスト・プログラムの様子を、参加者の感想文を中心にお届けします。

異性愛者のための交流ミーティング

男女を問わず異性愛の陽性者同士が出会い、お互いの経験を話すことは、日常生活のなかでは難しいことです。そこで、ぶれいす東京と連絡をとりあっている数人の異性愛の男女と相談しつつこの企画がスタートしました。第1回目の9月16日は6名参加、第2回目は11月18日に開催予定です。

【参加者より】

★ 私は投薬から数年経ちますが、病院の待合室などで他の患者の方達は目にするものの、接する機会は全く無く、つい最近迄話す事等も有りませんでした。

その為、感染発覚後はとても不安でした。そんな時、ぶれいすなどのNPOや医療機関等の発行するパンフレット、ネット上に有る患者の皆さんのBlogや掲示板などの情報は、不安の解消や時には励みになるなどしてとても役立った事を思い出します。

ネットには書き込めない話や、口コミ、評判や深い話、言葉では表現し難い微妙なニュアンス等は直接的なコミュニケーションでなければ伝わりにくいものです。今回はその良い機会になればと思い参加させて頂きました。

人の悩みは千差万別です。健常な方に悩みが無いかと言えば決してそうでは無く、それぞれ多様な悩みを抱えながら日々生活しています。参加者の方々も性別や年齢、立場は様々ですが、HIVに感染しているという同じ悩みの根を持つ人の集まりの中でのひとときは、言葉に表現し得ない安心感や一体感の様な感覚も得られ、その中でより一層、共鳴、共感したり、励まされたり、気付きや新たな発見が有ったりもします。

女性の視点からの悩み、奥様や周りの方々への理解を得られてらっしゃる男性や、独身で異性のパートナーが欲しい方、ぶれいすに集まる方々はゲイの方が多いかと思いますが、今回、様々な方の貴重なお話を伺う事が出来、参加した甲斐が有りました。

定期的な開催も、考えてらっしゃるとの事ですが、機会があれば次回も参加したいと思えます。少数の集まりでしたが私にとってはとても有意義な時間でした。

呼び掛けのお二方、事務局の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。(秋男)

【呼びかけ人より】

★ 第1回ということで、参加者が全然いなかったらどうしよう…と不安でしたが、自分とは別の立場の陽性者と会えることが出来てよかったです。病気に対しての気持ちの受け止めかただけでも個々それぞれで、本人から聞ける話がなにより新鮮でした。

まだ誤解されることも多い病気で、ネット等ではなく面と向かって、普段のふとした事を話せることも大事なんだと思いました。(ユキ/31歳/女性/2010年告知)

トークサロン「就職活動を報告しあう会」

今年1月から始まった新プログラムの1つがトークサロン。日ごろ皆さんが疑問に思っていることを、可能な範囲でお互いの経験を共有しつつおしゃべりしながら考える時間です。「就職活動を報告しあう会」はほぼ毎月1回のペースで開催、すでにのべ40名以上の参加がありました。その中から、2名の方に寄せていただいた感想文をお届けします。



1月から利用開始になった多目的室

【参加者感想文】

★ 病気を抱えたアラフィフにとって、就活は予想以上に困難の連続でした。障害を隠した(クローズ)応募はたいいてい門前払い。障害オープンでも、二次面接まで行って全く音沙汰無い某ダイバーシティ企業や、内定を匂わせつつ「実習」と称したタダ働きのあとの突然の電話で「無かった事に…」と断られた時などは、流石に落ち込みました。そんなとき、ぶれいすのトークサロンは本音で語り合える場として心の支えになりました。ちょっとした愚痴を言ってみたり、自身の体験からアドバイスも少しできたり、逆にアドバイスや元気をもらったこともありました。とくに障害のオープン/クローズを気にせず語れたのは有意義だったと思います。

ハローワークの一般と障害者の窓口活用の違いや、一般の基金訓練学校の情報などは、自ら発信できたこと。一方、障害を隠して就職することになったタイミングで、公的文書の盲点＝「税金の障害者優遇を受けていると住民税の情報が会社に行った際に障害者であることがバレる可能性アリ」ということを回避するやり方を教えてくれ、滑り込みでその通りにでき、危機一髪で助かりました。

事情や病状、年齢や性別もさまざま、集まるメンツもその都度異なるけど、一貫して自由で柔らかな雰囲気があって、とても好きな会でした。仕事が決まった今ではなかなか顔を



多目的室のベランダは花と緑がいっぱい

出せませんが、是非また参加したいと思っています。

(優造)

★ 体調不良からHIV感染が発覚し、以来投薬治療を受けています。幸いな事に、入院で会社も休む事もなく勤務は継続していましたが、家族や友人にも感染を話す事が出来ず一人悩み続け、職場での問題や先行きの不安等もあり、退職後、現在は求職活動をしています。

免疫機能障害。患者や関係者の方々以外にはあまり聞き慣れない障害者手帳に記された障害の名前。障害者の雇用を保護促進する目的で障害者枠というものがあります。障害者手帳が交付されているHIV陽性者は、一般枠、障害者枠という2種類の求人形態の中から選ぶ事が出来ますが、この制度により、応募の間口は広がるものの、病気を理解した上でHIV感染者の雇用を理解の有る企業を探す事は、震災の与件も加わり最悪と言える状況の中で、その難しさ、与えられたハンデの大きさを実感させられます。

同じ様に悩んでいる方の状況や活動の進め方、この病気に理解の有る企業の動向等を知る事は、とても有意義です。このミーティングに参加して判った事は、HIV陽性者は求職活動で病気同様に就職・転職で多くの悩みを抱えているという事実です。参加者は、リストラされた方、震災で職を失った方、退職後間もない方、就活が長期にわたる方、訓練校に通いながら活動されてらっしゃる方等、年齢も性別も経済状況等も様々です。

ハローワークやその他の公的機関の窓口での対応の違いやその効果的な利用法、履歴書の表現方法等、活動して初めて分かって来る事が多く有ります。現在、webやこの様な紙面や文章では表現出来ない内容、聞く事の出来ない話、各自の実体験に基づく貴重な話をこの集まりで何う事が出来、非常に有意義に感じています。また実際に内定を貰う事が出来た方の話にはとても勇気づけられます。

この状況の中での仕事探しに時々心が折れそうになる事が有ります。しかし状況は辛くとも今だからこそその可能性もあり、その価値も有るのでは無いかと思います。先行きが見えない方、一人で悩んでいらっしゃる方等、気軽に参加してみたいかがでしょうか。また違った展開が開けるきっかけを掴めるかも知れません。

(投稿者：40代)

ベーシック講座「社会福祉制度」

「ベーシック講座『社会福祉制度』に参加してみませんか？」

神原 奈緒美

2011年の1月にベーシック講座をはじめて半年以上が経過しました。

講義形式というよりは、みなさんが疑問に感じているところや興味をもっているところなどを中心



ベーシック講座「社会福祉制度」担当の神原

に毎回変えて話を進めます。健康保険のことから身体障害者手帳の成り立ちや年金受給など、内容はとてもおおまかで基本の「キ」なのですが、社会福祉制度の仕組みを知っていただき病院のスタッフに質問できるくらいの知識を持つことを目的としています。

講座の中で個々による相談は行ってはいませんが、もし疑問に残るようなことやもっと相談したい内容がある場合は、予約をして相談員とお話ししていただくこともしていますのでご安心ください。

これまでに参加していただいた方からは、「地域の制度を調べてみよう」「(身体障害者)手帳はこのような使い方があるんだ」との感想をいただいています。社会福祉制度の基本的なことが知りたい！と思われましたら是非参加をお願いいたします。

第7回 専門家と話そう「感染症の専門医と話そう」

シリーズの第7回目「感染症の専門医と話そう」は、6月24日に14名が参加して行われました。ゲストは村松崇さん(東京医科大学病院臨床検査医学科 医師)。



「感染症の専門医と話そう」ゲストの村松崇さん(左)と生島

の健康を維持するた

めに重要な、他の性感染症との重複感染について、基礎知識から最新情報までを詳しくお話しいただきました。

肝炎(A型、B型、C型)の感染経路や、予防とワクチン、治療とその限界といったことをわかりやすく整理して、梅毒やアメーバ赤痢などについても解説をしていただきました。さらに、最近注目されている性感染症としてのC型肝炎については、かなり踏み込んだお話をいただきました。後半の質問コーナーでも、数多くの質問に患者の立場に立って丁寧にコメントをしていただき、充実した学習会となりました。

参加者の中から3名の感想文をお届けします。

【参加者感想文】

★ 10年ほど前、感染症の専門医である当時の主治医から「C型肝炎は性感染症ではない」とはっきり言われた記憶がある。それ以来まったくノーケアの病気だった。被害の人たちのHIVとC型肝炎の重複感染の大変さを知っていたにもかかわらず、お恥ずかしながら自分ごととしては考えてもいなかった。政府の公報も「肝炎検査は一生に一度だけでいい」と繰り返していた。これも性感染しないことを前提にしたものだろう。1990年代後半にHIVが陽性と分かったばかりのころは、最新情報への更新は命がけだったが、いまやそれも遠い昔。すっかり油断していたと思う。

ヨーロッパの都市部のゲイのC型肝炎の流行が目立っており、すでに日本でも兆候があるという。しかも、HIV陽性者同士での感染が広がっているのではないかとの見方もあるようだ。

たぶん初診以外ではC型肝炎の抗体検査はしないので、まずは主治医に検査を頼んでみようと思う。でも、「都市部で暮らすゲイで、HIV陽性で、同性間の性行為で、あんなことやこんなこともしているから、C型肝炎の検査をしてください。」って、今更ながらちょっと言いにくい。性の健康について、なかなか主治医とは話せなくて避けてきたので、これを機会に話ができるようになるとうれしいのだけど。

(都内在住 男性)

★ 「感染症の専門医と話そう」に参加しました。主な内容は『HIV陽性者の間でC型肝炎（やほかのSTD）に罹るひとが増えている』というものでした。話が進むうち自分の中で“怖い”という気持ちが徐々に大きくなり、それはいまでも続いています（時間がたって落ち着いた部分もあります）。

HIVはいまや慢性病の一種で、そうそう命を落としたり入院したりすることはないという、一種の“安全神話”に依って、病気と共に生きることを楽しんでいるのが、僕にとっての日常だったからかもしれません。

個人的な話になりますが、生活基盤の崩れが理由で、今現在僕は独断で投薬を中止し、通院も数ヶ月していません。危険なこととはわかっていますが、やむにやまれぬ選択をしました。そんななかで他の感染症にも罹っていたら…。

普通に通院をしているひとにとっても、リスクなセックスの経験があるひと（セックスをする以上はSTDに感染するリスクはゼロではないのかもしれませんが）には、とても不安になるお話だったのでは、と感じました。

そんな不安を抱えながら、僕たちはHIVという病気とともに生きていかなければならないのだと、ある意味初心にかえる機会となるイベントとなったのではないのでしょうか。（ひろ）

★ B型肝炎には比較的馴染みがあっても、C型肝炎については全く知識がなかった。今回の話を聞いて、正直、背筋が寒くなった。定期診療や投薬でウイルスとうまく付き合っているからこそ、他の性感染症に対する予防の意識が薄れている自分に気が付かされた。HIVに対する適切な治療がなされている、だけでは不十分なのだ。そう痛感した。

「エイズは適切に治療をすれば死なない病気になった」という事実が、若い世代にはだいぶ浸透してきているのではないかと思う。けれど、その事実が安易に樂觀視され、僕ら陽性者のセーファーセックスに対する意識を弱めているのではないかとも思った。村松先生の言葉を借りるなら、性感染症については「適切に恐れる」ことが重要なのだろう。定期診療でも主治医にまかせきりにせず、知識がないことで闇雲に性感染症を恐れるのではなく、HIV患者としてまたセックスをする当事者として、より病気に対する知識を得ていきたいと思った。（Ryu 2008年告知）

第8回 専門家と話そう「弁護士と話そうⅡ」

シリーズの第8回目「弁護士と話そうⅡ」が7月22日に12名が参加して行われました。今回のゲストは、普段からHIV陽性者の相談を受けている弁護士の山下敏雅さん（東京パブリック法律事務所）。

ふれいす東京によく寄せられる質問を[仮想Q&A]にして、それをもとにプロの意見をお話いただくというスタイルで行われました。また、後半は参加者からの様々な質問にも応えていただきました。

以下、[仮想Q&A]と、参加者の感想文をお届けします。

【仮想Q&A】

Q1 「現在、サラリーマンとして勤務しています。何度か入院をしたり、体調不良が続いています。職場から診断書の提出を求められたりしました。主治医に配慮ある記載で書いてもらい、難なきを得ています。勤務先には、本当の病名を伝えないといけないのでしょうか？」



「弁護士と話そうⅡ」ゲストの山下敏雅さん

Q2 「最近感染がわかりました。過去に性行為があった人のなかで、可能性があると思われる相手に感染を知らせました。非常に拒否的な反応が返ってきました。知人の陽性者から、相手に受け入れられたという話を沢山きいていたので、とても驚いています。『もしも、自分の感染が判明したら、損害賠償を請求する』と迫られました。自分にはそのような義務があるのですか？」

Q3 「パートナーとは、結婚も養子縁組もしていません。自分の具合がわるくなった時の病院の面会はどうなるのでしょうか。また、もしもの時にパートナーに何かを残すことが可能でしょうか？具体的な方法について教えてください。」

Q4 「いろんな借入れが重なって、もうどうにもならない状況になってしまいました。銀行系のカードなども借り尽くしてしまい、サラ金などにも、そろそろいかないと支払いが難しくなってしまうそうです。こういう事って、どこで相談にのってもらえますか？」

Q5 「友達が薬物で逮捕されてしまいました。彼は今後、どのようになってしまうのでしょうか。仕事は続けていけますか？」

【参加者感想文】

★ 聞いたことはあっても、理解していなかった言葉から僕たちが身近に感じる事例を弁護士の観点から解説してもらってとても弁護士さんを「近くに」感じることができました。

自分が死んだとき・意思疎通が出来なくなったときにどうすればパートナーに法的に動いてもらえるようにするか…。法定後見制度は知ってはいたけど、任意後見ってものがあることとか…。法的に整備・制度化されていても、あまりに“知らされていないこと”が多く今回の勉強会に参加して“知ること”が出来たのが良かったです。薬物の話題では、逮捕されてから起訴されるまでの流れとか、パートナーと養子縁組をした場合は必ず年上の苗字になるとか「あ…そうなんだ」って発見もありました。

専門家と言われている方のお話を聞く機会は滅多にないと思っているのでまた今回のような勉強会に参加したいですね。（works）

★ 法律の問題というのはそれが必要となるシチュエーションに出くわさない限り、一般的には疎い人が多いかと思います。私もそうでしたが、HIV陽性が判明してからは、日常生活を送る上で知らないうちに「加害者」となってしまうのではないかという根拠の無い心配や、まだまだHIV陽性者が社会的に完全に受容されているとはいえない状況の中で病気の告知を躊躇う場面も度々あり、そのことで何か後ろめたい気持ちになったりしていました。それが後々訴訟に発展しないかとの不安を漠然と抱えていたりもししていました。

山下弁護士の話で普通に社会人としての適正な判断能力をもって生活していれば、故意（未必も含む）に行ったことでないかぎり法律は我々を守ってくれるものと再確認しました。実生活に役立ちそうなこととして、遺言書の作成の仕方や、任意後見制度の利用によりパートナー関係を公的にも有効とすることができることは「さすが法律家の視点」と感服した次第です。

（白頭 60代）

★ パートナーに養子縁組を提案されており、何から調べていいものやら戸惑っていたところへ今回のプログラムを知り、初めて参加させて頂きました。HIV陽性者である時点で、環境がかなり特殊でデリケートだけに、今回のようなプログラムは敷居が低く、状況を理解した弁護士と話せる貴重な場でした。

気になっていた養子縁組についても詳しく言及して頂き、さらには別な手段としての「任意後見制度」についても案内して頂き、視野が開けました。それを利用する場合に必要な不可欠な「遺言」についても、山下弁護士ご自身の貴重な資料をご用意して頂き、素人にも易しいガイドをして頂けたと感謝しております。養子縁組についてはまだ多くを勉強する必要がありますが（願わくば特化したプログラムや勉強会があると嬉しいですが）、自分の立ち位置を確認するいいきっかけになりました。ありがとうございました。

（ナイスツール 41歳 男性）

部門報告 (2011年7～9月)



ホットライン

エイズ電話相談（ぶれいす東京および東京都委託）

相談実績報告

—ぶれいす東京エイズ電話相談—

	7月	8月	9月
日 数（日）	5	4	4
総 時 間（時間）	20	16	16
相談員数（延べ人）	6	5.5	5.5
相談件数（件）	63	50	49
うち（男性）	49	39	42
（女性）	14	11	7
（不明）	0	0	0
陽性者相談	0	0	0
要確認相談	0	0	0
1日平均（件）	12.6	12.5	12.3

—東京都夜間・休日エイズ電話相談—（委託）

	7月	8月	9月
日 数（日）	15	12	13
総 時 間（時間）	45	36	39
相談員数（延べ人）	38	30.5	35.5
相談件数（件）	224	188	201
うち（男性）	173	151	165
（女性）	51	36	35
（不明）	0	1	1
陽性者相談	1	0	1
要確認相談	0	0	1
1日平均（件）	14.9	15.7	15.5

ホットライン部門・活動状況（）内は出席人数

7月	8日	東京都電話相談連絡会（3名）
	14日	個別ミーティング（2名）
	18日	世話人会（7名）
		新人研修ミーティング（13名）
		スタッフミーティング（20名）
		暑気払い懇親会（20名）
	22日	個別ミーティング（2名）
	31日	個別ミーティング（2名）
8月	1日	個別ミーティング（2名）
	2日	個別ミーティング（2名）
	13日	個別ミーティング（2名）
	21日	世話人会（6名）
		スタッフミーティング（14名）
		新人研修MTG（9名）
9月	2日	個別ミーティング（2名）
	3日	個別ミーティング（2名）
	8日	第2回 東京都ボランティア講習会 「HIV診療の現場から～最近の治療やト ピックスを中心に～」（7名）
	9日	東京都電話相談連絡会（3名）
	11日	世話人会（6名）
		スタッフミーティング（17名）
		新人研修MTG（11名）
	13日	個別ミーティング（2名）
	29日	活動報告書のための入力ミーティング （2名）

普段は1件1件、丁寧に相談を受けていくことが、ホットラインの使命と思って活動していますが、スタッフ間

の親睦のために暑気払いを兼ねた飲み会を7月に開催しました。笑顔と会話を聞いているだけで、とても温かい気持ちになります。和やかな雰囲気も大切ですね。これからも活動に邁進していきたいと思います。（報告：佐藤）



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング（7-9月実績）

7/2 3人 7/21 2人
8/4 中止 8/18 3人
9/3 2人 9/15 3人
※ 個別ミーティング 8件

利用者数

8カ所の医療機関に通院中、もしくは入院中の15名の方に25名のバディスタッフを派遣

活動内容（2011年9月末現在）

派遣継続中	21件
在宅訪問	12件
病室訪問	2件
派遣休止	6件
検討中	1件

7月～9月中の動き

・派遣調整 8件

11-1月のミーティング日程

午前ミーティング：偶数月第1木曜 11:00
奇数月第1土曜 11:00

11/5（土）、12/1（木）、1/7（土）

※木曜は参加者がある場合のみ開催。
事前にご連絡下さい。

午後ミーティング：毎月 第3木曜 18:30
11/17（木）、12/15（木）、1/19（木）

バディの現場から

既に利用している方の色々な変化に伴い、調整の多い期間となりました。ターミナル期に移行する方の支援や、視覚に障がいがある方の支援、車椅子の方の外出など、様々な活動があり、医療機関や関連する機関の方とも連携をとりつつ活動をしています。11/3（祝/木）はバディ・ワークショップを予定しており、またバディ・スタッフが増員される予定です。みなさま、よろしくお願いいたします。（報告：牧原）



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

ネスト・プログラム参加状況（2011年7-9月）

グループ・ミーティング

・新陽性者ピア・グループ・ミーティング（PGM）第60期（参加者7名）
7/2 7/16 7/30（修了）

- ・陰性パートナー・ミーティング
8/6（8名）
- ・ミドル・ミーティング
7/9（9名） 9/10（14名）
- ・もめんの会（HIV/AIDSを支える母親の会）
7/12（6名）
- ・[新プログラム]異性愛者のための交流ミーティング
9/16（6名）

学習会

- ・シリーズ“専門家と話そう”第8回「弁護士と話そうⅡ」
ゲスト 山下敏雅さん（東京パブリック法律事務所）
7/22 参加者12名
- ・ベーシック講座「社会福祉制度」
7/23（3名）
- ・ストレスとうまくつきあうためのワーク第14期
9/12（7名）

トークサロン

- ・就職活動を報告しあう会
7/13（8名） 8/20（8名） 9/14（5名）

その他のミーティング（陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか）

- ・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング
8/10（6名、7名）
- ・web NEST運営委員会
7/15（2名、2名） 8/19（2名、2名）
9/26（2名、2名）

NEST NEWS LETTER

7/8：7月号発行
8/8：8月号発行
9/5：9月号発行

お詫びとご報告

去る8/8、NEST NEWS LETTER8月号の携帯メール版配信の際、誤って一部のメールアドレスが他のメール受信者に見える状態で送信してしまいました。手作業による人為的ミスに加えて、チェック機能が働いていなかったことなどに原因があったと考えています。起こしてはならない事態を招いてしまったことを改めて深くお詫び申し上げます。

ぶれいす東京は、組織としてWeb上で広く説明させていただき謝罪することを決め、9/1に、「NEST NEWS LETTER配信時の個人情報一部流出に関する報告とお詫び」をぶれいす東京Webサイトに掲載いたしました。また、9/5発行のNEST NEWS LETTER 9月号紙版すべにも謝罪文を同封して、NEST NEWS LETTER購読者にお詫びと説明をいたしました。

再発防止策としては、送信前に専任相談員および配信担当者の2名が二重のチェックを行うこと、メール送信ソフト導入して手動によるミスを防ぐようにいた

しました。

皆様の信頼を回復できるよう、スタッフ一同全力で取り組みてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
(報告：はらだ)



Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS 電話相談

7月 20件 (1日平均4.00件)

8月 11件 (1日平均2.75件)

9月 12件 (1日平均3.00件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

7月 0件

8月 0件

9月 0件

今年も開催、MSMスタッフワークショップ

昨年度も実施して好評だった、Gフレはもちろん他の部門で活動している人も含めた、MSMのスタッフが対象のワークショップを8月7日(日)に開催しました。

当日は「エイズ予防のための戦略研究」で実施したアウトリーチや調査結果、また今後の展開についての報告に加え、Gフレ電話相談についての日本エイズ学会での口演を再現して、参加者で共有することができました。こうした学びの機会を今後も持ちつつ、Gフレの活動に活かしていきたいと思います。
(報告：sakura)



HIV陽性者への相談サービス

相談実績2011年7～9月

	7月	8月	9月
電話による相談	161	195	155
対面による相談	48	46	42
E-mailによる相談等	136	124	84
うち新規相談	24	21	21

※メール新規は含まず

7～9月の新規相談者の属性 (N=66)

陽性者： 30人 (男性：30 女性：0)

パートナー：16人 (男性：12 女性：4)

家族： 5人 (男性：2 女性：3)

専門家： 5人 (男性：3 女性：2)

その他： 10人 (男性：7 女性：3)

※その他には判定保留、友人も含む

7～9月新規相談者の情報源 (N=66)

WEB(PC/携帯サイト含)	34件	カウンセラー	1件
拠点病院/クリニック	5件	家族	1件
他の陽性者	5件	ハローワーク	1件
冊子・パンフレット等	4件	他団体	1件
パートナー(元パートナー含む)	2件	本	1件
刑務官/少年院	2件	以前から知っていた	1件
東京都職業センター	2件	不明	5件
ゲイバーのママ	1件		

7～9月新規相談の内容

【ネスト・プログラムへの参加等】

- ・(パートナーより)情報が欲しい。自分自身も混乱している。「陰性パートナー・ミーティング」参加希望。他計3件
- ・「トークサロン 就職活動を報告しあう会」参加希望。[九州/沖縄] 他 計2件
- ・「専門家と話そう」参加希望。
- ・「新陽性者PGM」参加希望。状態もよくなってきたみたいなのでいろいろなところに出かけてみたいと思う。
他 計3件
- ・LTRラウンジで置いてあった資料を見て、「ストレスマネジメント」に参加希望。

【ぶれいす東京への参加、サービス利用】

- ・他陽性者から『一度連絡してみたら』と紹介をされて連絡。
- ・これからのことについての相談。感染が間もないため新陽性者PGMを紹介。
- ・(家族より)本人が持っていたHIVに関する資料をあげてしまったので送ってほしい。
- ・コミュニケーションは英語のみ。ぶれいすに英語のチャットできるwebがないか。
- ・不明熱で入院し感染が判明。他の人はどうしているのか。
- ・いろいろな(ネスト)プログラムのことが知りたい。来所希望。

【検査や告知】

- ・(妻より)数週間前に夫が陽性と聞かされ、受検を勧められ受ける。結果が不安。
- ・(パートナーより)つきあい始めた相手からHIVと通知をされた。よくわからないので連絡をしてみた。
- ・ネットで購入したキットで陽性と出た。再検査をするにも週末のため不安。[中国/四国]
- ・迅速で陽性だったため確認検査を受けている。陽性だったときのために病院のことを知りたい。
- ・クラミジアがわかり、HIVの検査をしてもらった。確認検査待ちでの不安。[九州/沖縄]
- ・昨日病院で迅速を受けたら再検査と言われた。可能性が高いかもしれない。
- ・(パートナーより)3日前に陽性と通知された。これから検査をするがこれまでの行為で感染していないか不安。[東海]
- ・年に3回くらい検査を受けていて今回陽性と判明。相手にも通知したら相手もポジティブだった。
- ・陽性が判ったばかり。病院には行っていない。病院でのプライバシーが不安。[東海]
- ・(妻より)夫から発症していると言われ、今日、自分も病院で検査をしてきた。[東海]
- ・術前検査の結果で今日、陽性と判明。

【人間関係】

- ・(パートナーより)本人の飲んでいる薬を見て聞いたら

感染している事を話してくれた。〔北海道/東北〕

- ・外国人のパートナーのことで相談。海外に長期滞在するために体調等が心配。
- ・(妻より)夫が陽性と判明。彼を支えようとする気持ちと、外で感染してきた事で気持ちが揺れている。
- ・(家族より)陽性者本人と性的関係があるため、自分の感染が不安。
- ・(パートナーより)STDとHIVが判明し今後転院予定。自分も感染が不安。〔九州/沖縄〕
- ・(パートナーより)数ヶ月前に相手の感染が判明。むこうは別れようと言っている。
- ・(友人より)一緒に検査に行ったら友人が陽性と言われた。どこにも話ができないため相談を試みた。
- ・(家族より)同居しているきょうだいが感染。日常生活での感染が心配。
- ・(パートナーより)今後陽性と判ったパートナーと一緒に生活していけるのか聞きたい。〔東海〕。

【心理的なこと】

- ・十数年前に感染してから鬱を発症。現在も何もできないでいる。

【医療など】

- ・数ヶ月前に東京に引っ越ししてきた。外国人。通院先などについての相談。
- ・(家族より)子どもが都内の拠点病院に通院。服薬開始のようだが、どのような状況かわからないので不安。
- ・陰性のパートナーが下痢をしているので感染していないか不安。

【生活や福祉】

- ・(パートナーより)日常生活での感染に関する事と本人の就労についての相談。
- ・(家族より)息子が感染している。カミソリを共有しているが感染の可能性はあるか。
- ・今後、自立支援制度が利用できなくなる可能性がある。これに代わる制度があるか知りたい。
〔近畿〕
- ・(パートナーより)先日、陽性と判明し身障者手帳取得予定。医療費はどうか。〔近畿〕
- ・数年前に告知は受けている。今後の性生活について聞きたい。〔東海〕
- ・(パートナーより)外国人で現在海外にて治療中。結婚して来日したとき医療費はどうか。
- ・他陽性者から紹介を受けてぶれいすに来所。障害年金について知りたい。
- ・生命保険の更新だが、継続にあたって問題ないだろうか。〔中国/四国〕
- ・これまで国保だったが転職し会社の組合になる。会社に病気のことがわかってしまうことはあるのか。
- ・今月から投薬開始。公費の手続きをとったが、組合に給付金があると聞いたが利用すると勤務先に病気のことがわかってしまわないか。

【就労】

- ・ハローワークから紹介をされて面談を希望。
- ・(企業担当者より)障害者雇用についての相談。
- ・手帳を取得したら、職場にどのように影響があるか。
- ・(上司より)部下が陽性かもしれない。偶然陽性である事を知ってしまった。職務上(接客業)での感染が不安。〔東海〕
- ・発症して入院。現在休職中のため上司への診断書提出について相談したい。〔東海〕。

【専門家】

- ・(障害者就労支援の専門家より)就労支援者の連絡会で話をしてほしい。
- ・(障害者職業センター職員より)企業研修についての依頼。他 計2件。

【その他】

- ・一ヶ月前に風俗に行ってナマでやった。保健所で陽性と言われた。
- ・刑期が終了するために今後のことについて相談をしたい。
- ・Sex Workに従事。勤務先から言われて受検したら確認検査になった。陽性だったらどうしよう。
- ・友人がHIVらしい。家具に血痕がついたが感染の可能性はあるか。
- ・(家族より)子どもが性病科に長い間通院している。いろいろ調べたらHIVではないかと思う。
- ・YouTubeでエイズに関する動画で気になるものあって、どこに抗議したらいいかと電話をかけてみた。

(報告：牧原/福原/生島/神原)



研修・研究部門

職場研修

(東京都障害者職業センター雇用管理サポート事業など)

- | | |
|-------|--|
| 7月 6日 | 製造系企業を訪問(ハローワークの依頼)。社員7人が参加。 |
| 27日 | 外資系情報企業人事担当にレクチャー。社員4名参加。 |
| 28日 | 外資系製薬メーカーにて研修。社員15名参加。 |
| 8月 4日 | 外資系情報企業にて研修。社員40名参加。 |
| 9月 5日 | メーカー企業にて管理職向け研修。社員10名参加。 |
| 7日 | 外資系情報企業にて入職時研修。社員9名参加。 |
| 12日 | 外資系メーカー企業にて人事向け研修。社員6名参加。 |
| 21日 | 障害雇用連携会議、障害者就業・生活支援センター、アイキャリアにて研修。22名参加。 |
| 29日 | 障害者職業センター「雇用管理サポート講習会—免疫機能障害の基礎知識と雇用管理」講演(生島)。25名参加。 |

(報告：生島/大槻)

ぶれいす東京のTwitterアカウント開設

<http://twitter.com/placetokyo>

ぶれいす東京はニュースレターやウェブサイトなどを通じて様々な情報を発信していますが、今までタイムリーに伝えきれなかったことや、その時々すぐに役立つお知らせなどを、今後はTwitterでもお伝えできればと思います。

Twitterのアカウントをお持ちでない方も読むことができます(PC、携帯電話、スマートフォン対応)。アカウントをお持ちの方は、ぜひ@placetokyoをフォローして、つぶやきをリツイートして情報を広めてください！



◆◆ ぶれいす東京より 賛助会員入会・寄付のお願い ◆◆

HIV 陽性者の数は年々増え続けています。新たな治療法は開発されていますが、治療を続けながら生活する上では様々な問題が発生しています。HIV 陽性者とその周辺の人たちへの支援、コミュニティとして取り組んでいる予防活動等、私たちの活動へのニーズがますます高まっており、必要な運営資金も増え続けています。よりよいサービスやプログラムを継続するために、ぜひ私たちの活動を応援してください。

賛助会員入会のお願い

継続して応援してくださる方は賛助会員になってください。

--- 賛助会員になるには？ ---

メールか電話/FAXで賛助会員入会をお申し込みください。折り返し、ぶれいす東京の案内と賛助会費専用の振込用紙をお送りします。

E-MAIL info@ptokyo.com

電話 03-3361-8964 FAX 03-3361-8835

年会費 個人賛助会員 (一口) 1万円

団体賛助会員 (一口) 10万円

寄付のお願い

そのほか随時寄付をお受けしています。ぶれいす東京の活動をぜひともご支援ください。ご寄付はいくらでも結構です。匿名でも可能です。

--- 寄付の振込み方法 ---

◇ぶれいす東京の活動全般に対する寄付

郵便局 郵便振替口座 No.00160 - 3 - 574075

特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子

銀行 三井住友銀行 高田馬場支店 普通 2041174

特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子

◇HIV 陽性者への直接支援活動「ネスト/バディ」への寄付

銀行 三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店 普通 1314375

特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子

◇Gay Friends for AIDSの活動への寄付

銀行 みずほ銀行 高田馬場支店 普通 5507255

特定非営利活動法人 ぶれいす東京 理事 生島 嗣

編集後記

- ・今年は久しぶりにバディ活動に参加させていただきました。当たり前と感じていたことが、とても恵まれていること、有り難いことであると思ひ出させてくれた一年でした。出会ってくれた全ての人に感謝、ありがとうございました！(こんどう)
- ・日本エイズ学会が11月末、12月1日が世界エイズデーと、この時期には人前で話す機会が増え、心も慌たしくなる。年末よりも1ヶ月も早く年の瀬気分。(いくしま)
- ・11月とは思えない蒸し暑い日があり、その直後に寒波襲来。案の定、風邪をひきました。この時季の恒例となっているのですが、いい加減に学習しないといけません。(やじま)

編集・発行：特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403

TEL：03-3361-8964 (平日12～19時)

FAX：03-3361-8835

E-mail：info@ptokyo.com

ぶれいす東京 HP：<http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS：<http://gf.ptokyo.com/>

web NEST：<http://web-nest.ptokyo.com/>

Twitter @placetokyo (<http://twitter.com/placetokyo>)